

使用前に必ず本使用説明書を読み、記載事項を守って使用してください。

動物用医薬品

2019年5月改訂

承認指令書番号	23動薬第339号
販売開始	平成7年9月
再審査結果	平成17年7月

貯法 2～10℃の暗所

動物用生物学的製剤

劇薬 要指示医薬品 指定医薬品

NBオイル「NP」

(ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎混合(油性アジュバント加)
不活化ワクチン(シード))

【本質の説明又は製造方法】

このワクチンは、ニューカッスル病ウイルス及び鶏伝染性気管支炎ウイルスを発育鶏卵で増殖させて得たウイルス液を不活化し、それぞれオイルアジュバントを加えて乳化し、混合したものです。

【成分及び分量】

1バイアル(500mL)中

	成 分	分 量
主剤	ニューカッスル病ウイルス石井株(シード)	10 ^{11.3} EID ₅₀ 以上 (不活化前のウイルス量)
	鶏伝染性気管支炎ウイルスポーデット42株(シード)	10 ^{8.7} EID ₅₀ 以上 (不活化前のウイルス量)
保存剤	ホルマリン	0.5mL以下
アジュバント	流動パラフィン	325mL
	セスキオレイン酸ソルビタン	22.5mL
	ポリソルベート80	2.5mL
溶剤	リン酸緩衝食塩液	残量

【効能又は効果】

ニューカッスル病及び鶏伝染性気管支炎の予防

【用法及び用量】

30日齢以上の鶏の脚部筋肉内に0.5mLを注射する。

【使用上の注意】

(基本的事項)

- 守らなければならないこと
(一般的注意)
 - 本剤は、要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
 - 本剤は、効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
 - 本剤は、定められた用法・用量を厳守すること。(使用者に対する注意)
 - 事故防止のため、作業時には防護メガネ、マスク、手袋等を着用すること。
 - 作業後は、石けん等で手をよく洗うこと。(鶏に関する注意)
 - 本剤の投与前には健康状態について検査し、重大な異常(重篤な疾病)を認めた場合は投与しないこと。
 - 鶏が、次のいずれかに該当すると認められる場合は、健康状態及び体質等を考慮し、投与の適否の判断を慎重に行うこと。
 - 発熱、下痢、重度の皮膚疾患など臨床異常が認められるもの。
 - 疾病の治療を継続中のもの又は治癒後間がないもの。
 - 明らかな栄養障害があるもの。
 - 他のワクチン投与や移動などによりストレスを受けているもの。(取扱い及び廃棄のための注意)
 - 外観又は内容に異常を認めたものは使用しないこと。
 - 使用期限が過ぎたものは使用しないこと。
 - 本剤には他の薬剤(ワクチン)を加えて使用しないこと。
 - 注射器具は滅菌又は煮沸消毒されたものを使用すること。薬剤により消毒をした器具又は他の薬剤に使用した器具は使用しないこと(ガス滅菌によるものを除く)。なお、乾熱、高圧蒸気滅菌又は煮沸消毒等を行った場合は、室温まで冷えたものを使用すること。
 - ワクチン容器のゴム栓は消毒し、無菌的に取扱うこと。
 - 小児の手の届かないところに保管すること。
 - 直射日光又は凍結は品質に影響を与えるので、避けること。
 - 使い残りのワクチンは紙等で吸い取り可燃物として処分し、また、容器は地方公共団体条例等に従い処分すること。
 - 使用済みの注射針は、針回収用の専用容器に入れること。針回収用の容器の廃棄は、産業廃棄物収集運搬業及び産業廃棄物処分の許可を有した業者に委託すること。

2. 使用に際して気を付けること

(使用者に対する注意)

- ・誤って人に注射した場合は、患部の消毒等適切な処置をとること。誤って注射された者は、必要があれば医師の診察を受けること。その際、動物用油性アジュバント加ワクチンを誤って注射されたことを医師に告げるとともに本使用説明書を医師に示すこと。

本ワクチン成分の特徴

微生物名	抗原		アジュバント	
	人獣共通感染症の当否	微生物の生・死	有無	種類
ニューカッスル病ウイルス	当	死	有	オイル； ・流動パラフィン ・ポリソルベート80 ・セスキオレイン酸ソルビタン
鶏伝染性気管支炎ウイルス	否	死		

本ワクチン株は、不活化されており感染性はない。

- ・ワクチン容器の破損を防ぐため、強い衝撃を与えないこと。

(鶏に関する注意)

- ・注射部位を厳守すること。
- ・注射部位は消毒し、注射時には注射針が血管に入っていないことを確認してから注射すること。
- ・注射後は、温度管理等に十分注意し、鶏に与えるストレスの軽減に努めること。
- ・本剤投与後、一過性の投与部位の腫脹や緑色便がみられる場合がある。
- ・副反応が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

(取扱いに関する注意)

- ・注射器具(注射針)は原則として1羽ごとに取り替えること。
- ・使用時よく振り混ぜて均一とすること。また、使用中にも時々振り混ぜること。
- ・一度開封したワクチンは速やかに使用すること。使い残りのワクチンは雑菌の混入や効力低下のおそれがあるので、使用しないこと。

(専門的事項)

①対象動物の使用制限

- ・本剤は肉用鶏には投与しないこと。

【薬理学的情報等】

本剤は、記載された用法・用量において使用される限り、食に供しても人の健康への影響は無視できることが確認されている(そのため使用制限期間は設けられていない)。ただし、注射後の生体の正常な反応として、注射局所に肉眼的な所見が認められる場合があり、食鳥処理場において、部分廃棄の対象となることがある。そのため、必要により本剤注射後出荷時期を調整することを推奨する。

【有効期間】

3年間(最終有効年月はラベルに表示)

【包装】

500mL(プラスチック容器入り)

【製品情報お問い合わせ先】

株式会社 科学飼料研究所 動薬部
〒370-1202 群馬県高崎市宮原町3-3
TEL 027-347-3223
FAX 027-347-4577

製造販売元



株式会社 科学飼料研究所
東京都中央区八丁堀三丁目3番5号

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発症に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するために必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所(<http://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>)にも報告をお願いします。